



第3回 特別セミナー 遺体科学の挑戦

東京大学総合研究博物館 教授, 作家

遠藤 秀紀



動物遺体を無制限無目的に集めてきた。ニワトリもたくさんあったが、ニワトリだけ集めてほかの動物を捨てるような真似はできない。どんな遺体にも必ず謎が隠されているからである。遺体は進化の事実を隠しもつ、歴史書なのだ。歴史は、所詮は実験室で再現できるものではない。だからこそどんな小さな事実をも見逃さずに、この“歴史書”から事実をつかみ、多彩な角度で読みとらなければならない。そうすることで、すこしでも説得力のある「からだの歴史」を語るができるはずだ。比較と総合で遺体に挑んだ例として、ジャイアントパンダの前肢端把握機構やオオアライクイの咀嚼システムなどを採りあげたい。しばし遺体との対話の時間をともに愉しんでいただければ幸いである。

2012年10月3日(水)

15:30~17:30

生物生産学部3階

C301講義室

後援:

広島大学総合博物館



The road to the future of all dead bodies...